

大阪ガス株式会社（9532）

2024年3月期第2四半期決算

投資家・アナリスト向け説明会 主なQ&A（2023年10月30日開催）

Q1：決算資料に財務レバレッジを拡大し、ROEも重視する方向性が明記された。次期中期において、仮にROE 8%を目指すのであれば、タイムラグを除く経常利益が1,600億円程度必要である。現在以上に自己資本が増えると達成は難しい状況だが、今後は株主還元水準を高め自己資本を抑えるのか、それとも利益水準を上げるシナリオがあるのか。

A1：本日、確定的なことを言うのは難しい。今まで自己資本比率を上げ、事業基盤を強固にしながら成長投資を続けてきた。国内エネルギー、海外エネルギー、ライフ&ビジネスソリューション事業の3つの柱が成長しており、今後は適切に自己資本をコントロールするフェーズにきたと思っている。目指すROEの水準に対し、成長投資をしながら、どのように利益と株主還元をバランスさせ自己資本をコントロールしていくか、検討していく。

Q2：次期中期計画の資本政策について、今回の自己株式の取得で記載している総還元性向50%がメッセージと考えればいいのか？

A2：総還元性向を意識しているものではない。現時点で資本政策は決まったものは何もないが、エネルギー政策の動向や、昨年度のフリーポート火災事故のようなエネルギー供給途絶リスクなども考慮しながら、自己資本をコントロールし、財務レバレッジを拡大していく方向性と考えていただきたい。

Q3：アカウント数について、電気とガスのスイッチングは小康状態であるが、トレンドに変化はあるのか？

A3：お客さまは、引っ越しがあると電気・水道→ガスの順番で検討されることが多く、引っ越し時にスイッチされることが多かったため、引っ越しをターゲットとしたキャンペーンを実施している。足元では電気もガスもスイッチングペースは落ちているが、既存のお客さまを逆スイッチされないよう、チャーンマネジメント（既存顧客の流出対策）が重要になる。ダイレクトメール、ダイレクトコールだけでなく、WEBマーケティングを行ったり、様々なサービスと組み合わせしていく。例として、固定通信事業やTVのスマートスティック、家庭用冷蔵食の宅配なども開始している。プラットフォームと平行してコンテンツも作り、サービスの輻輳化を進め、お客さまを増やしていきたい。

Q4：ハイブリッド社債は、次期中期計画期間において繰上げ償還など検討するのか？

A4：ハイブリッド社債は、次期中期計画期間では繰上げ償還が可能となる時期を迎えるものがあるが、現時点では、リプレースメント（ハイブリッド社債/ローンでの借換等、同等の資本性を持つ手段で置き換えること）を基本として考えている。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。